

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		中間報告		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（3月1日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	工業の専門性の向上を図り、実地的・体験的学習に重点を置くとともに、産業界の求める人材を育成するための新しい教育課程を編成し、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組む。	①学び直しや生徒の自学自習により、知識・技能の習得のみならず、生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、活用する力を育む魅力ある授業の展開を目指す。 ②工業に関する専門性の向上を図る教育に重点を置き、産業界との連携を図りつつ、教科・科目の適切な設置を図れるよう編成を行う。 ③オンライン授業の環境整備に努め、技術向上を目指した研修会等の充実を図るとともに、継続的かつ組織的な授業改善に取り組む。	①プリントなどの補助教材の活用や、T T などによるきめの細かい指導を行うことで、基本的な知識・技能の習得を目指す。 ②生徒自らが課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図れるようなカリキュラムの編成や授業計画の策定を行う。 ③継続的に研修を行うことで、情報機器の実践的な活用方法などの技術の習得を図る。また、テーマを設定した研究授業の開催など組織的な授業改善に努める。	①生徒自身が主体的に学習に取り組む姿勢が見られたか。身に付けた知識を活用する姿勢が見られたか。 ②学習環境の整備を進め、生徒の学習意欲と学力の向上につなげることができたか。生徒自らが課題に取り組むための指導が実践できたか。 ③オンライン授業への環境を整え、授業実践のための技術や情報を共有することができたか。授業者と参観者が研究授業のテーマを共有し、研修を行い、組織的に授業改善を進めることができたか。	①生徒が自ら学び主体となる双方向授業が展開できるよう、ICT 機器の活用や一人一台端末の利用を積極的に進めている。 ②工業科の課題研究を始めとする多くの科目で、様々な問いを生徒へ投げかけ、課題を解決するための取り組みを促すような授業展開を実践している。 ③9月下旬におよそ1週間オンライン授業週間を行い、スキルアップ、情報の共有を行うことができた。	①一人一台パソコンについては、利用頻度をさらに増やせるよう職員全体での研究・研修等の機会を増やしていく。 ②I C T機器についてはハード面での整備はかなり進んできたので、今後はソフト面（効果的な使用方法の共有、個々人のスキルアップなど）の充実を中心に取り組んでいく。 ③11月には、「I C Tを活用したわかりやすい授業の取り組み」をテーマに、研究授業を行う。また、同時期に授業を見に行こう週間の2回目を実施してその内容を踏まえて、組織的な授業改善の取り組みを行う予定である。	ICT 端末を有効活動して、教育課程の指導内容の確実な定着に向けて、ICT 端末を活用している点が良いと感じます。 主体的な学びの実現を目指して取り組まれているのではないのでしょうか。そのあたりの取組に関心をもちました。 今年度より新学習指導要領に基づく新教育課程が高等学校において始めるにあたり、先生方におきましては新たな教材開発のご苦労があったかと想像いたします。 生徒の皆さんにより良い教育が届けられるようぜひ試行錯誤を繰り返していただけると嬉しいです。	①生徒が落ち着いて授業に集中できる授業の環境が整い、学習に集中することで、知識や技能の習得が図れるようになった。 ・始業前や放課後の時間に、進学へ向けた発展的な学習を望む生徒への補習や、授業中だけでは理解できない生徒へのきめ細かい指導を行うことができた。 ・来年度以降も、学習環境の整備を進め、生徒への指導を継続することで、生徒が積極的に取り組める授業作りを進めていきたい。 ②パソコンなどの情報端末を活用することで、生徒の学習意欲や課題へ取り組む姿勢を向上させることができた。 ・特に工業科目では、生徒が課題を解決するために必要な思考力や表現力の育成を主眼に指導を行うことができた。 ③I C Tの活用については、毎年取組目標の一つとすることで、職員も生徒も当たり前にあるものとして授業で活用できるようになってきている。 ・さらに取り組みを進め、活用の幅を広げていきたい。	①基礎学力の定着だけでなく、学習に対して意欲的な生徒の能力をさらに伸ばすことで、生徒のキャリアアップに結び付くような指導ができるように取り組みを進めていく。 ②生徒が主体的に課題に取り組み、問題解決力がより確かなものになるような指導を学校として進めていく。 ③1人1台端末の利用状況としては、まだまだ授業での利用が十分に高いとは言えないため、教科だけでなく学校としての取り組みを進めていく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①豊かな人間性の育成を図るとともに、個に応じた生徒支援と相談体制の一層の充実により生徒理解に努め、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。 ②社会的・職業的に自立した人材の育成をめざす。 ③部活動の活性化を図る。	①個に応じた支援体制の充実をめざし、職員研修および情報共有の充実を図る。 ②生徒が参加できる学校行事の運営を目指す。	①職員研修を実施し、心の健全・身体の安全等に関する支援スキルを向上させ、教育相談報告会等を実施し、情報共有と生徒理解を深める。 ②生徒会や委員会の生徒を中心に学校行事を運営する。	①生徒個々の理解を深め、個に応じた支援・指導を実施することができたか。生徒の日常行動や意識が向上したか。 ②生徒が中心となって行事の運営や実施ができたか。	①教育相談報告会を実施し、生徒の情報共有を行った。 ①教育相談研修会を実施し、自死や食物アレルギー等に関する理解を深めた。 ②体育大会では今まで以上に運営に参加して実施できた。	①必要な知識・スキルを学ぶ機会を提供できていると思うが、研修の回数が多く、教員のモチベーションの維持と研修内容の定着度の確認方法が課題である。 ②グループの人数に限りがある中で、どうやって業務を進めるかが課題である。	高校生に成長した生徒の基礎として、小学校段階でどのような資質を目指せばよいのかが知りたいと思います。 生徒それぞれ悩むポイントは異なっているはずですので、ICT を活用した効率化やさまざまな活動の優先順位づけを行い、生徒ひとりひとりと向き合う時間を作っていただけると嬉しいです。	①教育相談報告会では情報共有を行い、教育相談研修会では自死について、また食物アレルギーについての理解を深めることができた。 ②年間を通して生徒が参加できる学校行事の運営に尽力できた。体育大会と文化祭は実行委員が中心になり企画運営を行い、責任をもってやり抜き、達成感と自信を得ることができていた。	①どうしても教員によって問題意識に差が生じてしまう。少しでも多くの教員の意識を高めるために、生徒の情報共有と問題意識の共有を図る必要がある。教員のニーズに合わせた研修を実施したい。 ②より生徒が参加したくなる行事にすることが重要である。そのためには、生徒自身が行事を自分事化できる仕組みづくりと定時制だからできる企画に取り組んでいきたい。

	視 点	4 年間の目標 (令和2年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		中間報告		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（3月1日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化したキャリア教育を確実に実践し、社会を構成する一員としての自覚を育む進路指導・支援に取り組む。	①改訂したキャリア教育実践プログラムを教員・生徒に共有し、それに基づいた進路ガイダンスやL H Rを計画的に実施していく。	①教室・職員室・ホームページへの掲載をすることで、内外に情報を伝えていく。 ②進路ガイダンスやL H Rは内部での情報の共有と蓄積に加えて、外部の活用を活発にすることでキャリア教育目標の実現を図っていく。	①情報を発信し、教員・生徒に理解してもらえたか。 ②進路ガイダンスやL H Rが内外を活用することで、生徒にとって進路実現につながる機会となったか。	①キャリア教育実践プログラムを教員・生徒に共有できていない。 ②進路ガイダンスやL H Rは情報共有や蓄積は進んでおり、外部の活用も様々な形で取り組み始めている。	①十分な情報発信ができていないので、まずは情報発信に取り組む。 ②生徒の進路実現につながる進路ガイダンスやL H Rが実施できている。これを継続し、体系化することが必要である。	生徒の想いと保護者の想いに差が生じる場合もあり、苦労なされることもありますが、挑戦されることを応援したいと思います。	①進路ガイダンスや全校集会を通して、キャリア教育実践プログラムについて情報発信することができた。今後も継続して情報発信することで教員・生徒に浸透させていきたい。 ②進路ガイダンスでは外部を活用した新たな取り組みを実施し、キャリア教育の幅を広げることができた。 中間報告にもある通り、今後はこれを体系化することが必要である。	①来年度は新1学年の新入生オリエンテーションでもキャリア教育についての説明をする場を設ける。これによって、入学から卒業までの積み上げを生徒に意識づけしていきたい。 ②キャリア教育目標を達成するためには、年2回の進路ガイダンスだけではなくL H Rの効果的な活用が不可欠である。 グループからの情報発信し、学年団と協力して年間を通じたL H Rの活用計画を構築したい。
4	地域等との協働	地域・企業との連携・協働を通して教育活動を活性化させ、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。	①地域行事への生徒参加を促し、地域貢献清掃活動の定期的な実施を計画する。 ②学校P Rのため学校ホームページを活用して、中学生やその保護者等へ学校情報の発信に努める。	①地域貢献清掃回数を増やし、地域のイベントに生徒が参加できる環境を作る。 ②学校ホームページの定期的な更新に努めるとともに、学校説明会等を通して、中学生や保護者等の本校への理解を深めさせる。	①地域清掃活動の回数が増えたか、また地域活動に生徒が参加することができたか。 ②学校ホームページによる情報発信の回数が増えたか。学校説明会等における本校への理解について、アンケートの回答に向上がみられたか。	①地域清掃活動を10月29日に実施する。 ②4月よりホームページの更新回数も増えている。最新の情報を掲載し、中学生からのアクセスが多い	①全校一斉にはできないので、学年ごとに2, 3学期に計画していく予定である。 ②学校見学会の申し込み、学校説明会の申し込み数は例年と変わっていない。増加に向けた取組方法を検討する。	学校 HP など中学生に響くものがあります。 引き続き工業系専門学校の魅力をアピールしてください。	①10月29日に各学年の美化委員の生徒が地域清掃を実施し、11月に学年ごとに地域清掃を実施した。 ②課題研究で製作した足踏み式アルコールスタンドを地域の幼稚園に寄贈した。 ③12月に実施した学校説明会には中学生26名。年3回行われた学校見学会に15名の来校があった。 定時制学校ホームページ年間で8回更新した。	①地域清掃活動以外にも地域と連携して教育活動を活性化させる方法を考えていく。 ②中学生の進学先の多様化により、定時制工業高校を希望する中学生が減少しているので、学校説明会や学校ホームページを活用し本校の魅力を伝えていく。
5	学校管理 学校運営	①事故防止の徹底に取り組むとともに、防災意識を高め学校防災力の向上を図る。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①信頼される学校づくりを目指して事故防止に努めるとともに、生徒に防災意識を持って訓練に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ②会議や連絡事項について、職員連絡ツール(Teams)を活用して効率化を図り、生徒に向き合う時間を確保する。	①私費会計処理の適正処理を徹底するとともに不祥事故の防止に全職員が取り組む。 ②職員連絡ツール(Teams)を活用し、職員間の連絡を効率よく行う。	①私費会計監査の指摘事項及び不祥事がゼロになったか。 ②年2回の避難訓練及びD I G訓練を実施できたか。 ③Teams 掲示板を効率的に活用し、職員間での指示連絡が円滑に行えたか。	①全職員で毎月不祥事防止研修会、危険予知活動を実施している。 ②事務監査では指摘事項はなかった。 ③職員連絡ツール(Teams)掲示板を使い、打合せや内容や連絡事項の伝達がスムーズに行われている。	①12月14日に3年生にDIG訓練、1月に全校で避難訓練を実施予定である。 ②職員が共有する情報機器、付属品の管理体制をしっかりと行う仕組みを改善する。	ICTの活用については、得意な生徒さんが必ずいるはずですので、そのような生徒さんを中心に生徒同士でも教え合うことができると思います。 先生方はさまざまな活動のため大変お忙しいことを想像します。ぜひICTによる校務の効率化を図り、教材開発や生徒の皆さんと向き合う時間を確保いただきたいと思います。	①私費会計の監査指摘事項もなく適正に処理されていた。 年間を通して、毎月、企画会議前に不祥事防止会議を実施し、職員会議前に不祥事防止研修会を実施した。 職員全員が事故防止に取り組んでいた。 ②6月と1月に全校で避難訓練を実施できた。 災害DIG訓練を2, 3年で実施した。 ③職員連絡ツール(Teams)掲示板を使い、打合せ連絡は定着してきた。 学校と生徒との連絡ツール(classroom)の有効活用方法を考えて行く。	①引き続き私費会計の処理を適正に行うように職員間で注意していく。 ②職員会議前の不祥事防止研修会では職員が事例を自らの事として考えるようになった。 次年度も継続していく。 ③生徒の災害意識を継続させていく。 ④情報機器の管理をしっかりと行うこと。 ⑤欠席連絡など学校と生徒との連絡ツール(classroom)の有効活用方法を考えて行く。